

おお たら はい じ あと 大 寺 廃 寺 跡

大寺廃寺跡は伯耆町大殿に所在する7世紀後半の白鳳期創建の寺跡です。寺跡は大殿集落の家の下に埋もれていましたが、調査によって南に金堂、北に塔、西に講堂を配置し回廊で囲われた寺院の伽藍が確認されました。塔跡には舍利穴を持つ心礎が残っており、近隣から発見された石製の鴟尾は群馬県の山王廃寺と大寺の2例のみで重要文化財に指定されています。



塔跡の心礎



石製鴟尾

さか なか はい じ あと 坂 中 廃 寺 跡

伯耆町大殿に所在する坂中廃寺は7世紀後半の白鳳期創建の寺跡です。

現在は、塔の心礎が残るのみで寺の伽藍配置は不明です、坂中廃寺は瓦から8世紀前半から中ごろに創建の寺と考えられ、西側に会見郡衙（役所）の遺跡が確認されており、郡司層による建立寺院と考えられています。



塔の心礎